ガーシー氏を生んだ既成政党の衰退と「ビュー・デモクラシー」

水島治郎・千葉大教授

2023年4月4日

参院本会議で除名が決定し、職員に取り外される政治家女子48党のガーシー氏の氏名標＝国会内で2023年3月15日、竹内幹撮影

政治家女子48党（旧NHK党）は一般的なポピュリズム政党とはやや異なる。一種のプロテスト・パーティー、抗議政党としての性格が強い。既存の政治や既成の権威に抗議して、注目を集めることが目的だ。

ガーシー（東谷義和）元参院議員をめぐる問題は、党の議席数に比べればはるかに大きな注目を集めた。既存の政治のルールに反して除名になったからといって、党にとってマイナスとは限らない。

ネットでPV（ページビュー）が重視されることと同じように、賛成かどうかは別としてクリックされる。「ビュー・デモクラシー」の落とし子だ。

参政党も同じだが、既存の組織を持たないなかで、ネットで注目を集め、ビューを稼ぎ、支持者が広がっていき、集会にも多くの人が集まるようになる。そうしたやり方が一定程度、成功したのが2022年参院選だ。このような「政治分野の起業家」はこれからも出てくるだろう。

政治家女子48党のガーシー氏の除名が決定し、記者会見する大津綾香党首（左）。右は黒川敦彦幹事長＝参院議員会館で2023年3月15日、竹内幹撮影

団体優位の政治

日本の政治はいまだに20世紀型政治を引きずっている。20世紀には、二つの有力な政党、あるいは政党群があり、保守と革新、右と左など、あちら側、こちら側が有権者に見える政治だった。有権者も農協や青年会議所、宗教団体、労働組合などの団体を通じて、どちらかの政党につながり、ブロック化されてきた。

団体に加わらなければ生活に必要な情報が入手できないため、しかたなく加入する側面が強かった。しかし1990年代以降のネットの発達でその必要がなくなると、団体を通してではなく直接、有権者の気持ちを代弁する主張が魅力を持ち始めた。

既成政党を支えてきた団体には共通する問題点がある。世界平和統一家庭連合（旧統一教会）も含めた自民党の支持団体や立憲民主党など野党を支える労働組合、公明党や共産党の政党組織などには、今の感覚にはそぐ

わない部分がある。個人個人のさまざまな思いを封じ込める組織の論理がそれであり、結果として組織離れを招いてきた。

旧来の団体が人のつながりを作るうえで一定の役割を果たしていたことは否定しない。しかし、上意下達であり、女性差別的であり、「男が偉い」ことになっていた部分は否定できない。

今の若者がそのような団体に入らないのはむしろ自然だ。団体を通じた既成政党の機能は明らかに衰退し、魅力を失っている。

一方で自分の力でネットワークを作り、必要な情報を集められる人は恵まれた人だ。個人が完全にバラバラになれば、底に沈んでしまうしかない。若者の自殺が問題となっているのは、日本だけではなく他の先進国でも同じだ。

団体が機能しないのであれば、社会全体になんらかの傘をさしかける必要がある。しかし、それがまだ見えていない段階で、既成政党が批判され、旧NHK党のような党が支持を得ている。

裸の王さま

自民党は今も着実に利益配分の政治を続け、支持基盤の引き締めに必死だ。それでも、少子高齢化にせよ、経済にせよ、既成政党が課題に対応できていないという有権者の感覚は強い。先進国では共通の現象だ。

欧州では、ポピュリズム政党が移民問題やグローバル化による国内産業の空洞化に対応できていないと既成政党を批判し、一定の説得力を持つようになっている。

日本は良くも悪くもグローバル化が進んでいないため、欧州ほどにはポピュリズム政党が伸びる状況ではない。しかし、このまま何もしなければ、既成政党が最後は裸の王様になってひっくりかえされることが、数年とは言わずとも、遠くない将来に起きる可能性はある。

NHK党から参院選に立候補したガーシー氏の選挙カー。本人はおらず、録音した音声を繰り返し流していた＝東京都渋谷区で2022年6月24日、三浦研吾撮影

＜政治プレミアトップページはこちら＞

水島治郎

＋フォロー

千葉大教授

1967年生まれ。東大大学院法学政治学研究科博士課程修了。法学博士。甲南大助教授などを経て現職。専門はオランダ政治史、欧州政治史。著書に「ポピュリズムとは何か―民主主義の敵か、改革の希望か」（中公新書、石橋湛山賞受賞）「反転する福祉国家　オランダモデルの光と影」（岩波現代文庫）など。編著に「ポピュリズムという挑戦―岐路に立つ現代デモクラシー」（岩波書店）「ポピュリズムの本質　『政治的疎外』を克服できるか」（中央公論新社）など。

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。
画像データは（株）フォーカスシステムズの電子透かし「acuagraphy」により著作権情報を確認できるようになっています。
Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.